

市政の窓



8月28日、令和5年9月吉野川市議会定例会開会日、原井市長は令和5年度のこれまでの成果と今後の市政運営方針についてその所信を表明し、市民の皆さんや市議会に理解と協力を求めました。要旨は次のとおりです。

この夏は、東京都心をはじめ全国各地で最高気温が35度以上となる猛暑日が、最も多かった昨年を上回る状況となりました。特にお子様や高齢者の方々には、熱中症対策にご注意いただき、自身や家族の安全を最優先に、ご自愛されますようお願い申し上げます。

さて、8月15日付の徳島新聞においても紹介されたところですが、川島高校の生徒さんが提案したアイデアが、この度、桑の葉や実を使ったジェラートとして商品化されることとなりました。

この度の商品化は、本年2月に開催した「ふるさと対話集会」において、同校の生徒の皆さんから、地域の魅力や課題の掘り起こしについての解決策として、かつて養蚕業



桑の葉・桑の実ジェラート【ふるさと納税返礼品】に登録

が盛んで、桑が多く栽培されていた本市の歴史に着目した「産官学連携による「桑」産業の創出」についての提案をいただいたことが、きっかけです。

今秋からの販売予定と伺っており、11月頃には、本市ふるさと納税の返礼品として登録することとしています。

若い世代の斬新でわくわくするようなアイデアが、本市の魅力や全国へ向けて発信する一助となることを期待しています。

市政の動き

●財政状況

令和4年度一般会計の決算について、単年度の実質的な収支を表す「実質単年度収支」は、2年連続で黒字となりました。また、基金残高が、前年度末から約7・1億円増加した一方、地方債残高は、前年度末から約17億8千万円の減となり、昨年度に引き続き「収支状況」、「基金残高」および「地方債残高」のいずれにおいても健全化が図られています。

しかしながら、財政構造の弾力性を測定する比率として用いられる指標の経常収支比率は、昨年度の88・3%から92・0%と3・7ポイント上昇しており、行財政改革の取り組みを引き続き着実に推進するとともに、身の丈に合った財政運営を継続する必要があります。

明らかとなっております。今後も慎重な財政運営が求められるところですが、このような状況のなかにあっても、アンテナを高く張り、地域の実情を常に把握しながら、「地域活性化」と「財政

健全化」をバランスよく実行していくことが市民の皆さんから負託を受けた私の最大の責務であると考えています。

●市制20周年

本市は、来年10月に、合併後20年の節目を迎えます。「市制20周年」を、市民の皆さんとともに祝い、喜びを分かち合い、そして吉野川市民であることを誇りに思う機会となるよう、市民の皆さんの思い出として残る「記念式典」や「特別事業」のほか、例年実施している各種事業をアレンジした「冠事業」、更には20年の軌跡を振り返る「記念誌の発刊」などの実施について、協議・検討を重ねていきます。

本市が歩んできた20年目の節目を契機として、市民の皆さんがふるさとへの深い愛着を感じ、人と人とのつながりを深めるとともに、「ふるさと吉野川市」の素晴らしい豊かな自然環境や文化・産業を次世代へ確実につなげていくことを務めとし、未来に誇れる「夢紡ぐまち」の実現を目指してまいります。

●新型コロナウィルスワクチン接種（秋開始接種）

春開始接種と同様、秋開始接種においても、集団接種は実施せず、個別医療機関での接種を行います。

ワクチン接種を受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、本人の意思に基づいて接種を判断いただきますようお願いいたします。

●ヨコタ上桜スポーツグラウンド・シャワーユニット設置

同施設を練習拠点とするFC徳島の選手が、練習後にシャワーを浴びた上で職場へ出勤できるようにと、(株)ヨコタコーポレーション様から、この度、シャワーユニット2基を寄贈していただくこととなりました。

来年4月から使用開始できるように、本定例会に設置工事に係る関連予算を提案しています。

完成後は、グラウンドを使用するたくさんの方々に利用いただき、施設の利便性向上につなげるとともに、市民の皆さんの健康維持やスポーツ

に取り組める環境づくりを推進し、本市の活性化を目指していきます。

子育て・教育の満足度向上

●子どもまんなかの取り組み

かねてからの要望に鑑み、鴨島児童館へAEDを設置することとし、本定例会に関連予算を提案しています。

鴨島児童館へのAED設置により、本市が所管する保育所や子ども園、小・中学校、放課後児童クラブなどすべての児童関連施設について、当該施設または隣接する施設にAEDを備えることとなり、万一の時には速やかに救命活動を行える配置となります。

今後においても、子どもの命を守る取り組みをはじめ、こどもにとって一番の利益を念頭に、「こどもまんなか社会」の実現に努めていきます。

●とくしま探究プロジェクト事業

人口減少や産業衰退などの徳島県が抱える課題について、さまざまな観点や分野から児童・生徒が主体的に探究

学習に取り組む「とくしま探究プロジェクト」に、本年度の実施校として、高越小学校5年生が取り組むことになりました。

主な取組内容は、国指定の天然記念物である「船窪オンソツジ群落」や「美郷のホタル発生地」の見学・調査、阿波和紙伝統産業会館で和紙づくりや藍染めの体験学習を実施するなど、地域の方々の協力や指導をいただきながら、ふるさとの探究に取り組めます。

さらに、一人一台端末を活用して、吉野川市の魅力を紹介する動画を作成し、GIGAスクール実践動画コンテンツに応募するほか、学校ホームページなどで情報発信も行います。

暮らし・福祉の満足度向上

●ふれあい収集

高齢者世帯の増加や核家族化の進展に伴い、日々のごみ出しに課題を抱える世帯が増えてきていることから、高齢者世帯などのごみ出し支援事業として、「ふれあい収集」を試験的に実施します。

●はばたけ!!若者応援プロジェクト

本プロジェクトは、本市の魅力ある「まちづくり」を推進することを目的に、本市で行う事業やイベントの資金調達を、ふるさと納税の仕組みを活用したガバメントクラウドファンディング®で支援するもので、本年度も応募のあった3件とも採択されています。

今後は、10月からふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」で90日間寄付を募り、令和6年度に事業実施の予定となっています。

採択された事業が、今後の本市の魅力あるまちづくりや地域の活性化につながることを期待しています。(本号5ページ参照)

●市民提案型まちづくり推進事業

本事業は、さまざまな地域課題を市民の皆さんと行政が連携し解決していくために昨年度から実施しているもので、今年度も提案事業の募集には5件の応募がありました。

去る8月25日に審査委員会において事業の選定を行い、荒廃している里山の再生や市内に残存する貴重な文化財の活用など、4件の採用を決定しました。

吉野川市が世代を超え、将来にわたって安心して暮らせる場所となるように、市民の皆さんと市が一体となって、よりよいまちづくりを行っていきたくと考えています。

成長する産業づくりの拡大

●おえクーポン事業の進捗状況

生活者と事業者双方の支援と、市内経済の活性化を図るため、吉野川市民の皆さん全員を対象に、9月より市内の登録店舗で使える1人当たり5000円のクーポン券を配布する第3弾「おえクーポン事業」を実施しています。

●安心・安全なまちづくりの拡大

利用期間は、9月1日から12月31日までとなっていますので、多くの市民の皆さんの利用をお願いします。

●消防団装備品の充実
本市では、消防団員の安全確保と災害対応能力向上のため、消防団の装備品などの充実強化に取り組んでおり、この度、消防団員等公務災害補償等共済基金からの助成金を一部活用し、行方不明者の捜索時などにおいて必要となる「救助用半長靴」(編み上げ靴)を全消防団員に配備することとなりました。

●簡易デジタル無線屋上アンテナ設置事業
本事業は、県の令和5年度「とくしまゼロ作戦」県土強靱化推進事業費補助金を活用し、本庁東館屋上へ簡易デジタル無線屋上アンテナを設置するものです。

これにより、大規模災害発生時などにおいて、通信手段が途絶した状態であっても、簡易デジタル無線を利用して災害対策本部と各支所、各消

